国／県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	無形文化財	日本刀製作技術	にほんとうせいさくぎじゅつ		①山県郡北広島町有田 ②庄原市西城町西城	①平18.4.17 ②平28.10.27（保持者の追加認定）			現在の日本刀の形態は平安時代後期に現れ，その姿形の美しさと地鉄（じがね）の鍛え（きたえ）肌や刃文（はもん）の多様さから，鉄の芸術品として高く評価されている。 本県でも，鎌倉時代後期には刀匠の存在が確実であり，以来700年以上にわたり途絶えることなく，多くの刀匠が工夫と鍛錬を重ね，作品を作りあげている。 現在，保持者として，北広島町の三上孝徳（刀匠銘　貞直）氏，庄原市の久保善博（刀匠銘　善博）氏が認定されている。		
県	無形文化財	一国斎高盛絵	いっこくさいたかもりえ		広島市中区江波東二丁目	平23.4.21			一国斎高盛絵とは，「堆彩漆（ついさいしつ）」と呼ばれる極めて類例の少ない独特の漆芸技法である。鎌倉時代から行われている高蒔絵（たかまきえ）の鯖（さば）上（あ）げの技法をベースにして，歴代の一国斎が漆絵や堆朱（ついしゅ）・堆黒（ついこく）などの様々な技法を付加していき，広島在住の三代金城一国斎が幕末・明治期に完成した。 歴代一国斎の作品には，茶器，文箱，硯箱，香箱，菓子器，飾盆などがある。これに，ボタン，ユリ，モミジ，カキツバタ，ウリ，アシナガバチ，トンボ，ハチなどの植物や昆虫を高く盛り上げて描き出す。中でもアシナガバチを草木花に配するのが一国斎の特色である。 池田昭人氏は，この一国斎高盛絵の技法を五代・六代から継承するとともに，たゆまぬ研鑽と創意工夫を重ねてきている。その作品は，絵画的なやわらかさと彫刻的な重厚さを併せ持つ一国斎高盛絵の芸術世界を見事に表現しており，全国的にも高い評価を受けている。		